

## I 総括的概要

平成19年度において日本商工会議所青年部（日本YEG）は、<「We Can Do It. 今行動！」  
全ては愛する地域のために」>をスローガンに、以下の3テーマを中心に活動を展開した。

第1のテーマは、「地域のために」である。日本YEGの連合体としての特性を最大限に生かし、全国各地のYEGが関わる街づくりや祭りの成功事例、ビジネスの最先端情報などを集約し、各地YEGの事業活動のアイデアやヒントなどを提供することで、全国YEGの地域活動への支援を行った。また、25周年特別委員会を中心に「故郷の新しい風会議」を開催し、行政とのパイプ強化を図り、地域活性化のためにYEGが担うべき役割とその具体的な活動について若手国家公務員等と活発な意見交換を行った。

第2のテーマは、「各地単位YEGのために」である。各地商工会議所におけるYEGの位置づけを明確にし、商工会議所の内部組織として地域経営に積極的に関わるYEGの支援を行うとともに、ITツールを利用した情報の受発信やネットワーク形成を支援した。また、これからの時代のYEGのあり方を見据えた中長期ビジョンの策定と、それらの実行に必要な組織、さらには具体的な事業と行程の検討を行った。

第3のテーマは、「会員企業のために」である。企業経営者であるYEG会員の出会いや交流をベースに、それぞれのビジネスにアイデアとチャンスを見いだせる場として「ご縁満開YEGビジネスサイト」を活用、現在登録企業数は約1,100社にものぼっている。また、中小・零細企業が抱える問題の中から、平成18年度に引き続き、「事業承継の際の相続税の非課税」および「第三者個人連帯保証の原則撤廃等」について日商に対し提言（※1）するとともに、平成19年度では「地方幹線道路等の早期整備」について日商に提言書（※2）を提出した。なお、こうした活動が実り、平成20年5月9日の参議院本会議において「中小企業における経営の承継の円滑化に関する法律」が可決成立し、平成20年10月1日から施行される運びとなった。

具体的な活動としては、会員相互の「親睦・交流」、「研修・研鑽」を促進し、各地のYEG活動の活性化を図ることを目的として、全国9ブロックにおいてブロック大会を開催した。また、11月に千葉県千葉市で「第27回全国大会千葉大会」を開催し、3,380名の参加を得た。さらに、平成20年2月には長崎県長崎市で1,414名の参加を得て「第25回全国会長研修会長崎塾」を開催し、各地YEGの意識高揚、連携強化等を図った。加えて、平成19年度は日本YEGの設立25周年にあたることから、過去5年間の事業や取り組みをまとめた「25周年記念誌」を作成するとともに、8月に設立25周年記念事業として「YEG東京サミット」を開催した。また、平成20年2月の第51回会員総会において、規約第1条の「目的」および第3条の「事業」の一部を改正した。

今年度で第7回を数えた「YEG大賞」は、応募総数79事業の中から、YEG大賞（日商会頭賞）に会津若松YEG（会津喜多方YEG、須坂YEG、岡崎YEGとの連携事業）の「ジュニアエコノミーカレッジ」が、敢闘賞として高松YEGの「男木島地域活性化を目指している団体への支援事業」および浜松YEGの「平成19年度浜松市政令指定都市移行記念事業『集え！起業家の卵たちよ！』」がそれぞれ選ばれた。本事業のエントリーにYEG事業データベースを活用することで、さらなる情報の集約・共有が可能となり、各単会における事業企画立案の一助となっている。

YEG会員個々の支援策として、日商が実施している「経営革新塾」（創業人材育成事業）を活用して、「YEGビジネスプランコンテスト」を開催した。新しいビジネスプランの発掘、起業化・事業化の促進、地域経済のオピニオンリーダー企業の育成を目的に実施し、35プランの応募の中から白山YEG・細川悟君「LPG（ハイブリッド）車普及」をグランプリに選定した。

なお、平成20年3月末現在の青年部設置数は444カ所（設置率85.9%）、うち日本商工会議所青年部加入は400カ所（加入率90.1%）となっている。